

横浜 I R (統合型リゾート)の 方向性



『横浜イノベーションIR』

横浜を世界から選ばれる
デスティネーション (目的地) へ

2020年 8月

横浜市



1	はじめに	1
2	横浜 I R 実現への取組の背景	3
(1)	現状と課題	4
(2)	横浜の観光・M I C E の現状	7
(3)	横浜の持つポテンシャル	9
(4)	上位計画	13
(5)	将来を見据えた横浜市が取組	16
(6)	日本型 I R の基本方針	17
(7)	横浜都心臨海部のまちづくり	19
(8)	横浜 I R の立地場所	21
	参考 (I R の事例と効果)	23
3	横浜 I R の方向性	25
(1)	基本コンセプト	26
(2) - 1	世界最高水準の I R を実現	31
(2) - 2	必要な機能・施設	33
(3) - 1	都心臨海部との融合	47
(3) - 2	都市デザイン・景観形成	48
(3) - 3	スマートシティ・環境・防災など	50
(3) - 4	スマートな交通環境の構築	53
(4)	オール横浜で観光・経済にイノベーションを	55
(5) - 1	安全・安心対策の横浜モデルの構築	59
(5) - 2	依存症対策	61
(5) - 3	治安対策などの懸念事項	80
4	I R 実現による効果	87
(1)	横浜へ広がる I R の効果	88
(2)	全国への波及効果	90
(3)	納付金・入場料の使途	91
(4)	市民の豊かな暮らしへ	92
	参考 (I R による消費活動)	94
5	地域の理解促進・合意形成に向けた取組	95
(1)	基本的な考え方	96
(2)	広報計画	97
(3)	市民説明会	98
6	スケジュール等	99
(1)	今後のスケジュール	100
(2)	これまでの検討経過	102
(3)	パブリックコメント	103

1 はじめに

1 はじめに

横浜市の現状・課題

横浜市においては、人口減少社会の到来を迎え、超高齢社会が進展し、生産年齢人口の減少や老年人口の増加による消費、税収の減少など、経済活力の低下や厳しい財政状況が見込まれています。こうした状況の中でも、開港以来大切にしてきた横浜の歴史や文化を守り、子育て、医療、福祉、教育など、市民の皆様の安全安心な生活を将来にわたって支えていく必要があります。

これまでも、企業誘致やクルーズポートの整備、待機児童対策、小児医療費助成の拡充など、様々な施策・課題に取り組んできました。横浜市が、今後も都市活力を維持していくためには、あらゆる方策・課題に対応していかなければなりません。

このような状況の中で、国が成長戦略と地方創生の大きな柱として位置付け「観光先進国」としての日本を実現するために制定された、「特定複合観光施設区域整備法（以下 I R 整備法）」に定める「日本型 I R」を実現することは、これからの横浜の課題を解決していくための重要な手法の一つです。

横浜のまちづくりの歴史

横浜は1859年の開港以来、様々な社会状況の変化の中で、その時代の要請に応えられるよう「進取の気概」をもち、積極的に新しいものを取り入れていく、先進的で横浜らしいまちづくりを展開してきました。

開港を契機に、海外諸国との交易の中心地となった横浜は、世界中から集まる人・モノ・情報・文化にあふれ、文明開化の名のもとに、近代日本の成長をけん引する国際的な港湾都市として、目覚ましい発展を遂げてきました。中でもその中心であった関内地区では、外国人居留地の誕生など、国際性豊かな市街地が形成されるとともに、外国人技術者による近代的な技術の導入、時代の先駆けとなるまちづくりが進められてきました。また、関東大震災や横浜大空襲など、社会状況の変化の中で直面した様々な困難な時期においても、将来に向けたより新しいまちづくりが進められてきました。

その後、昭和の高度経済成長期を迎える一方で、様々な都市問題が発生する中、現在の横浜市の骨格をつくる「六大事業」の推進が提案され、その中のひとつである「都心部強化事業」により、港湾機能の質的転換が図られ、当時分断されていた関内・関外地区と横浜駅周辺地区の二つの核が一体化した新しい横浜都心部が形成されました。また、機能性と美的性・人間性を両立させる「都市デザイン手法の導入」や「文化芸術」の創造性をまちづくりに生かす「創造都市・横浜」の取組など、時代を先駆けるまちづくりが進められています。

横浜を世界から選ばれるデスティネーション（目的地）へ

『横浜 I R』も、これまでのまちづくりと同様に、都心臨海部が育んだ港町横浜ならではの歴史・文化を継承します。美しい港や水際線を身近に感じる豊かな都市空間の景観を生かし、富士山が望める I R として、日本の新しい顔となるシンボリックなリゾートを都心臨海部一体となって形成します。

そして、次の時代の横浜の活力をけん引し、新産業を創出させる「これまでにないスケールとクオリティを備えた M I C E 施設」や、「世界の富裕層から地域の家族連れまで満足させる多様なニーズに応えるホテル群」、「観客を魅了する一流のショーやエンターテインメント」、「子供から訪日外国人まで楽しめるアトラクション」「日本各地の魅力や文化を世界に発信し、来訪客を全国各地に送り出すゲートウェイ機能」を、この横浜に整備していきます。

『横浜 I R』を起爆剤として、横浜の観光・経済にイノベーションをもたらし、横浜が「観光先進国・日本」の新たな顔として世界から選ばれるよう、オール横浜で『横浜 I R』を推進していきます。